

わんちゃん、ねこちゃんの健康について、獣医さんから
専門的にお話しいたします！

わんにゃの健康最前線

「食道内異物～お餅じゃないけど 意外なものが詰まります～」



京都中央動物病院
院長 獣医師
村田 裕史 先生

時々慌てて何かを飲み込んだ時に息苦しくなることがありますよね。お正月にはお餅を詰まらせて、……、みたいなニュースを聞くこともあると思います。このような話はわんちゃんやねこちゃんにも決して珍しい話ではないのです。

はじめに

「にんじん(図1)、りんご(図2)、なし(図3)、ジャッキー(図4)、骨(図5)、針(図6)、竹串、歯磨きガム、発泡スチロール、ゴム、おもちゃetc.」これらは一体なんだと思いますか？実は、私が今までに経験したことがあるわんちゃんやねこちゃんの食道に詰まったものです。一番多いのはやはりジャッキーなどのおやつですが、その他のものもしばしば経験します。このような意外なものが食道に詰まります。このような状況を診断するのは、わんちゃんやねこちゃんを比較すると、圧倒的にわんちゃんの方が多いです。なぜならわんちゃんは食べ物を丸呑みする癖があり、あわてて大きいものを飲んでしまつと胃に落ちる前に食道に詰まってしまうためです。このように食道内に何かが詰まることを「食道内異物」といいます。

ジャッキーなどのおやつはハイリスクで



症状

す。おやつをあげるときは、わんちゃんが慌てて飲み込んで大丈夫な大きさのものを与えるようにしましょう。ジャッキーなどのおやつや食べ物であっても食道では消化することができません。また、おもちゃや発泡スチロールなども当然ですが消化できません。そのような異物であるジャッキーなどが食道に長くどまると、その場所に炎症が生じ、この炎症から食道狭窄になったり、その異物により食道が壊死して食道穿孔するなど様々なトラブルが起きてきます。そして、それよりも最も問題となる症状である大切な食べ物を飲み込めない通過障害を生じるため、食事をとることができません。また、誤嚥性肺炎などにより様々な程度に咳や呼吸困難などの呼吸器症状が出ることもあります。

診断

一般的な症状としては、通過障害による食欲不振や嘔下困難、流涎(ヨダレ)、嘔気、吐出などの消化器症状です。また、呼吸困難や肺炎症状、咳などの様々な呼吸器症状を出すことがあります。

まず大切なのはわんちゃんやねこちゃんがいとも食べているドッグフード以外のものを飲み込んだ後に、急性に流涎や呼吸困難などの症状を呈していないかをしっかりと

と問診で聴くことが重要です。しかし、残念ながらこの非常に有力な手がかりとなるこの問診の所見も、わんちゃんやねこちゃんが飲み込む現場を飼い主さんが目撃していないことも決して少なくありません。また、通常の疾患では非常に有力な手がかりとなることが多い身体検査も特徴的な所見を得ることができません。食道内の多くの異物は食道といっても胸腔内といつて肋骨の中に存在する部位に位置するため、直接触ることができない位置に存在することが多いためです。このような場合に有力なヒントは、症状のところで示したような、嚥下困難、ヨダレや呼吸困難などの症状があるかどうかです。この症状がある場合、診断を次のステップに進めることとなります。

次の診断のステップで使用するものは、何がいいでしょうか？血液検査？エコー検査？それともCT検査でしょうか？答えはX線検査となります。この時、胸部X線検査(図7)だけでなく、頸部に異物が存在することがあるために頸部のX線検査(図8)も含めることが重要です。また、この通常のX線検査においてはつきりと異物を確認で



きなかったときには、必要に応じてバリウムなどの造影剤を使用したX線検査を実施する場合もあります。このバリウムはX線透過性の異物を検出できる可能性がありますが、続いて実施することが多い内視鏡の診断と処置を妨げる可能性がある点に注意が必要です。そのため、単純X線検査で診断が不明確なときは異物を映し出す感度は落ちますが、その他の造影剤を検討することや、次の診断ステップである内視鏡を検討することも重要となります。

そして、この食道内を確定診断のため、治療のために最も重要なツールは内視鏡です。この診断ツールを抜きにこの疾患を診断そして治療することができない非常に重要なもので、大本命の内視鏡ですが、一つ大きな弱点があります。それは、わんちゃんやねこちゃんのために内視鏡を実施するためには、人間の場合と異なり、全身麻酔が必要な点です。

治療

わんちゃんやねこちゃんの食道内異物の治療には、先ほどの診断のところで述べた内視鏡が非常に有用です。多くの食道内異物はこの内視鏡により除去することができます。この除去とは食道から異物を取り出す場合と食道から異物を胃の中に押し込む場合があります。通常は取り出すことができますが、ジャッキーや骨などの食べ物の場合、胃の中に押し込むことで治療が終

予後

了となることもあります。対して、内視鏡で食道内異物を除去できない場合は、外科手術が必要です。しかし、そのような場合は食道へのダメージが非常に大きく、予後については注意しなければいけません。

詰まってすぐに食道内異物を取り出すもしくは胃の中に押し込むにより除去できる場合、比較的予後が良好です。しかし、統計によると食道内異物の25%に合併症が生じるとの報告もあり、状態が緊急となっているケースも多いなど注意が必要である疾患であることは間違いありません。また、食道内に異物が詰まってから時間がたつと食道に炎症が生じ食道炎や穿孔などを生じるなど状況により予後が異なります。

終わりに

今回、意外なものがわんちゃんやねこちゃんの食道に詰まることわかったと思います。しかし、この食道内異物は飼い主様やわんちゃんやねこちゃんがいらずに場所には放置しないなど注意すると防げる事故(病気)です。ぜひ、今回の記事を参考にしてください。また、もし何か飲み込んでしまったら早めに動物病院に連絡して相談してください。

〈お問い合わせ〉
京都中央動物病院 電話 075-821-1020 京都市下京区柿本町582-3 9:00~20:00